

The service club to the YMCA



THE Y'S MEN'S CLUB OF TAKARAZUKA

“ TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIS EVERY RIGHT

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL OF Y'S MEN'S CLUBS CHARTERED MAY 22,1988

宝塚ワイズメンズクラブ 2026年9月会報 第453号

宝塚ワイズメンズクラブ

〒662-0977

西宮市神楽町 5-23

西宮 YMCA 内

Tel (0798)35-5987

六甲部 HP

QRコード



主 題 ・ 標 語

国際会長(IP) Johan Vilhelm Eltvik (Norway)

主 題 「ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる」

“Waking the Sleeping Giant with Blue Music”

標 語「YMI-人生を力づける」「YMI -Empowering Life”

アジア太平洋地域会長(AP)Rachan Maneekarn (Thailand)

主 題 「アジア太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる」

Awakening the Asia Pacific with Blue Music

標 語 地域社会を力づけ、世代を鼓舞する」

“Empowering communities, Inspiring Generations”

西日本区理事(RD) 岡村遍導 (滋賀蒲生野)

主 題 「変わり続けようワイズメン！ 私たちが見たい西日本区に！」

Let's keep chaiging,Y's Men!

To become the Japan West Region we want to see.

標 語 「地域社会のリーダーとなり躍動しましょう」

Be a community leader and make a difference!

六甲部長(DG) 杉本隆人

主 題 和を以て貴しとなす

To be true to oneself through harmony.

宝塚クラブ会長 福田宏子

主 題 みつけよう。つながろう。よくなってゆこう。

Discover.Connect.Grow.

2026年 9 月例会

日 時：2026 年 9 月 9 日(水)18時30分

場 所：宝塚市西公民館ホール

会 費： 1,500 円

ドライバー： 小林康男・長尾 亘

開会点鐘 会長 福田宏子

ワイズソング 「いざ立て」

聖書・平和の祈り 多胡葉子

ゲスト・ビジター紹介 会長 福田宏子

食前感謝の歌 ごはんだ・日々の糧

会 食

卓 話 「現代の学生事情について」

関西学院大学職員 篠坂直隆 氏

YMCA報告 担当主事 橋本 唯

誕生日のお祝い 会長 福田宏子

ニコニコ

閉会点鐘 会長 福田宏子

西日本区 9 月強調テーマ： EMC・YES

「三方よし、みんな笑顔に！ ～ワイズよし、YMCA よし、西日本区よし。笑顔の輪を広げましょう～」 みんなで協力すれば、大きなことが出来るし、楽しくなること間違いなし。

EMC 事業主任 大橋芳夫(京都パレス)

2026～2027 役 員	会長：福田宏子 副会長：金岡幸宏 書記：若林成幸 会計：小林康男 監査：長尾 亘・風早寿郎 担当主事：橋本 唯 直前会長：多胡葉子
事業委員長	Yサ：武田寿子 CS 環境：金岡幸宏 EMC：長尾亘 国際・交流：岡野泰和・石田由美子 広報・ブリテン：若林成幸
特別事業 委員長	TIFA/NGO：小林康男 ファンド：金岡幸宏・多胡葉子 市民クリスマス：若林成幸
周年事業企画	岡野泰和・安行英文・金岡幸宏
六甲部主査	EMC 多胡葉子 国際役員 岡野泰和

9 月誕生日	1 石田由美子 15 橋本 唯 29 福田宏子
8 月例会実績	会員在籍数(A) 17 名 例会出席総数(B) 19 名 (内訳) 会員(C)12 名(内ズーム) 0 名) メネット・アソシエイト 4 名(内ズーム 2 名) ゲスト・ビジター 5 名(内ズーム 0 名) メイクアップ(内数 D) 2 名 会員出席率 C+D/A 70.6% 例会充足率 B/A 111.8%
8 月実績 にこにこ ファンド	ニコニコ 2,000 円 (累計 10,000 円) ファンド タカラムネ 0 円 (累計 8,800 円) 真菰茶 0 円 (累計 △6,250 円) その他 0 円 (累計 0 円) 合 計 0 円 (累計 2,250 円)

聖句

「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます。」この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた。

(新共同訳) 新約聖書・ルカ福音書1章28－29節

随想

熊本大地震、関東地方の大雨と大地震、酷暑…。こんな時、「神様は、なぜ、こんなことをなさるんだろう」と思ったりします。

2011年、東日本大震災の時に、自分の診療所も被害を受けたのに2日目に診療を開始した山浦玄嗣(はるつぐ)医師が『「なぜ」と問わない』という本の中で、次のように書いていました。

「震災後少し落ち着くと、私のところにテレビ、新聞、雑誌などのインタビューが殺到してきました。…そして、彼らは皆、判で押したようにこう言うのです。『東北の人たちは非常に我慢強い。…善良であり、正直である』。このように前置きしてから、こんな質問を投げかけてきました。『こういう実直で勤勉な立派な人々が、なぜこんな目に遭わなければならないのか。あなたは信仰者としてどう思いますか』。驚きました。そんなことは夢にも考えたこともなかったからです。ところがどういうわけか、来る人来る人みんな同じことを尋ねるのです。そのしつこさに、だんだん腹が立ってきました。私はあの惨害のさなかに、何千人という気仙の人間を診ました。そして涙ながらにその悲惨な話を聞きました。彼らと一緒に泣きました。…けれども、『なして、おらアこんな目に遭わねアばなんねアんだべ』という恨み言を聞いたことはただの一度もありません。しかし、東京から来た人はなんでみんな同じこと考えるんだろうと。それで、同級生仲間に聞いてみました。すると、聞かれたその友だちも怒りだしました。『とにかく東京がら来る人だちア判で押したように同じことオ語る。なしてだべな?』そして出た結論は、『暇だからでねアが?』でした。気仙の人たちはとても信心深い人々です。…けれども、『何で、阿弥陀様がわれわれをこんな目に遭わせるのか』と…ばかなことを言う気仙衆は一人もいません。…結局、東京の彼らの言葉は、…『お前たちの信心は何だったんだ』という非難めいた問いかけなのです。…われわれだって満身創痍なのです。…人の心を絶望で腐らせる猛毒です」。

私たちはすぐに原因と結果をさぐりたくなります。その結果がおかしくても、その結果で自分を納得させようとします。しかし、聖書は上掲の聖句を私たちに届けてくださいました。

私たちも思い巡らすのです。インスタント的な答えに満足しないで、しばらく思い巡らせるのです。だって手軽に出てきた答えに、あなたは今後のご自身の人生を委ねることができますか?

問題を前にひたすら歩き回るのは。問題の壁をほじくってみるのです。壁の前でとどまり続けるのです。主はそんな堂々巡りをする者と共にいてくださいます。

宝塚教会 牧師 浦上結慈



お誕生日おめでとうございます。

1 石田由美子 15 橋本 唯 29 福田宏子

近年は住居の西洋化や和室のしつらえの多様化にともない花を飾る場所や眺める視点の高さなどに変化が起きました。

草木を純粹に創作の素材として捉えレリーフという形にも制作されるようになりました。今月のお花はガーベラで陽気で明るい雰囲気を持つお花です。「希望」「常に前進」などポジティブな花言葉を持つお花です。

鯖尻松香

8 月例会報告

8 月の第一例会は灼熱地獄のような猛暑も少し和らいだ 8 月 12 日(水) 18 時半より西公民館ホールで開催された。出席者はメン 10 名、メネット 2 名、Zoom 参加はアソイトの 2 名、ゲストスピーカー 2 名、ゲスト 3 名 計 19 名であった。ゲストとして、西日本区ユース事業主任上杉徹メン、西宮クラブの小野勅紘メン、以前ゲストスピーカーとして奉仕下さった岡本和子さんが参加された。

司会は石田由美子メンで進められ、福田宏子会長の二度目の開会点鐘で始められた。食事後の卓話には 2 名のスピーカーに学生 YMCA についてお話を聞いた。

はじめの岩坂二規氏は関西学院大学教育学部准教授で学生 YMCA の成り立ち、その歴史、高校生までまきこんだ多岐にわたる活動を言葉巧みに話され、我々にとっても始めて聞く貴重な学びである為、特別頂いた先生の原稿を別記として紹介させていただきます。

2 人目のスピーカーの鈴木一弘さんは学生 YMCA 関西地区協働スタッフと大阪 YMCA 国際専門学校の教員であられ、学生 YMCA の実働などについて話された。関西地区の学生 YMCA として神戸女学院 YMCA の働きの紹介、例えばフェアトレード商品の販売、不登校生の学習支援、東日本大震災支援として石巻市の高齢者や小学校訪問や、福島県では放射線値の高い所へも出向き、子供達の室内遊びで支援した事、最近では西日本豪雨災害支援、熊本地震支援等、質の高いプログラムの紹介があった。ワイズメンズクラブとの協働の可能性としては、海外プログラムの交通費補助、例会での報告、ブリテンへの寄稿等が考えられると話された。

今回初めての学びであったが、若い学生達が社会の課題に果敢に立ち向かう姿を知り、ワイズメンとして為すべき事があれば大きな意義もあり、共に成長出来る機会にもなるとつくづく思った。

(青柳美知子)



2026.8.12 宝塚ワイズメンズクラブ例会卓話(全文) 関西学院大学教育学部准教授 岩坂 二規 学生 YMCA の活動とユースワーク ～若者が自ら考え、出会い、社会に関わる場として～



皆さん、こんばんは。本日は、このような機会をいただき、ありがとうございます。今日は「学生 YMCA の活動とユースワーク」というテーマでお話しします。学生 YMCA についてよくご存知の方もいらっしゃると思いますが、「今、学生 YMCA は何をしているのか」「学生 YMCA には、今の時代にどんな意味があるのか」となると、簡単に答えるのは難しいかもしれません。

今日は、学生 YMCA の歴史を簡単に振り返りながら、私自身が学生たちと関わってきた経験を通して、学生 YMCA とは若者にとってどのような場なのか、そして、これからの YMCA にとって どのような意味を持つのかを、一緒に考えてみたいと思います。

そのあと、後半は、日本 YMCA 同盟の働きである学生 YMCA 共働スタッフの関西地区担当として、長年にわたって大学や専門学校の学 Y に寄り添い、サポートを続けてくださっている鈴木一弘さんから、よりライブリーな学 Y 活動の現状と課題についてお話いただきます。

1. 日本の YMCA 運動は、学生・青年から始まった

それでは、お手元のレジュメに添ってお話させていただきます。まず少しだけ歴史を振り返ります。

明治初期の日本のキリスト教史において、「横浜バンド」「熊本バンド」「札幌バンド」と呼ばれる青年たちのグループが重要な働きをしたことが知られています。横浜バンドには植村正久や井深梶之助、本多庸一、熊本バンドには小崎弘道や海老名弾正、徳富蘇峰、札幌バンドには内村鑑三や新渡戸稲造など、後の日本社会に大きな影響を与えた青年たちがいました。

大阪でも 1880 年、沢山保羅の指導のもと、大阪専門学校の学生たちによる「浪花基督教青年会」が生まれています。これは、後の京都三高、京都大学 YMCA の前身といえるグループです。

こうした青年たちは、その後、日本各地の都市 YMCA の創設にも関わっていきました。1888 年には東京大学学生 YMCA が誕生し、1897 年には全国 10 の学生 YMCA による「学生 YMCA 同盟」ができます。そして 1903 年、学生 YMCA 51 団体と都市 YMCA 6 団体が統合して、日本 YMCA 同盟が成立します。日本 YMCA 同盟と聞くと、全国の YMCA が集まって結成されたような印象がありますが、この「同盟」というのは、学生 YMCA と都市 YMCA が同盟した、すなわち、“学 Y とシティ Y との対等な合同”というところに意味があります。

こうした青年たちは、その後、日本各地の都市 YMCA の創設にも関わっていきました。1888 年には東京大学学生 YMCA が誕生し、1897 年には全国 10 の学生 YMCA による「学生 YMCA 同盟」ができます。そして 1903 年、学生 YMCA 51 団体と都市 YMCA 6 団体が統合して、日本 YMCA 同盟が成立します。日本 YMCA 同盟と聞くと、全国の YMCA が集まって結成されたような印象があります。

つまり、日本の YMCA 運動は、大人たちが組織をつくって若者を集めたというよりも、若者たち自身が集まり、学び、祈り、社会に働きかけようとしたところから始まったと考えることができます。戦前の学生 YMCA の特徴を一言で表すなら、「自ら学び、祈り、社会を変える」ということになると思います。若者自身が何を考え、何を始めるか。そのことが成人を巻き込んだ社会運動へとインパクトを与え、社会変革の力となっていく。ここに学生 YMCA の原点があります。

2. 時代が変わっても残ってきたもの

戦争によって学生 YMCA の活動は大きな打撃を受けますが、戦後、再び活動が始まります。1950 年代には、自治的なグループワークや聖書研究、社会問題研究会、学生キャンプなどが盛んになりました。1960 年代には、さらに社会へ目を向け、貧困問題、国際ワークキャンプ、平和運動や核問題などに取り組みます。当時、盛んだった学生運動とは少し違って、学生 YMCA が大切にしたのは、「力よりも対話」「信仰と社会参加」という姿勢でした。

しかし 1980 年代以降、若者のあり方は大きく変わります。一つの組織に所属して、みんなで同じ活動をするというスタイルは次第に難しくなりました。今では、学生がボランティアをしたいと思えば、YMCA に入らなくてもさまざまな選択肢があります。学生 YMCA も、従来の大きな組織活動から、若者の居場所、ゆるやかなつながりや多様性…といった特徴を前面に出しながら、そのあり方を変化させてきました。

レジュメの①から⑤の時代の変遷と、それに伴う活動形態の特徴を考えると、日本の学 Y が若者を取り巻く社会の価値変容とともに、大きく姿を変えてきたことがわかります。また、私を含めて、現在、YMCA やワイズメンズクラブで活動している大人にとって、2000 年代以降の学 Y やユースの実態が、自分が当事者だったイメージからはずいぶん異なることがわかると思います。

しかしながら、私は、その中でも変わらず残っている学 Y のアイデンティティといえるものがあると思っています。それは、若者自身が主体になり、時代ごとの困難や課題を仲間とともに現場で考え、行動に繋ぐ力、あるいはそのような習慣です。

3. 学生たちと一緒に歩いてみて

私自身も、これまで学生 YMCA の「伴走者」のような立場で学生たちと関わってきました。その一つが、大阪国際専門学校学生 YMCA、OYICSY です。OYICSY は 1999 年 2 月に、大阪 YMCA の土佐堀会館で発足しました。阪神淡路大震災を契機に同校に設置された「国際ボランティアコース」の学生たちが国際学科の高校生も巻き込んで一緒につくった、「都市 YMCA の中にある学生 YMCA」です。

その 2 年前から、学生たちは、大阪西成の釜ヶ崎地域の夜回りや炊き出しに参加していました。最初から、貧困問題について深く勉強していたわけではありません。

当時、釜ヶ崎の路上生活者支援の炊き出しなどに必要なお米が不足しているという記事を読んだメンバーが、「自分たちでお米を集めて届けたい」と言い出したことがきっかけでした。かれらは、釜ヶ崎地域で長年労働者とともに支援活動をされていた西成教会牧師の金井愛明先生に会いに行きました。「お米を寄付したい」と申し出ると、金井先生は「あなたたちは学生なのだから、まずは、なぜこのような地区があるのか、路上生活者たちがなぜこのような状況にあるのか、しっかり勉強しなさい」と言って断られました。そして分厚い本を手渡してくださいました。

かれらは『無縁声声—資本主義残酷史』というその本の読書会を開き、この社会の構造について学んだうえで、もういちど金井先生のおられる「いこい食堂」に向かいました。そこから、毎週 水曜日の夜回りへの参加と、年末の釜ヶ崎の越冬活動に協力するために、土佐堀館内でクリスマスにお米と衣類などの支援物資を募る「釜の米キャンペーン」という活動を開始しました。

かれらはさらに、釜ヶ崎だけではなく、国内外のさまざまな問題に学生が自分たちの力で取り組む NGO や NPO のような団体をつくりたい、と言い出しました。それを聞いた元大阪 YMCA 主事で、当時国際専門学校の校長をされていた入江保夫さんが、「それをやるなら、学生 YMCA をつくるのがいいね」と言ってくださったのです。

OYICSY はその後、自分たちで版画展やコンサートを企画したり、イラク戦争と平和に関する 学習会や講演会、聖書研究会を行い、関西地区の大学YMCAとも積極的に交流しました。その活動は、国際ボランティアコースがなくなった後も、高等課程の生徒たちに受け継がれ、i-cosy と名前を変えて今に至っています。このあとお話される鈴木さんは、その i-cosy のサポートもしてくだっています。

いずれも、大人が「これをしなさい」と言って始めたものではなく、学生・ユースの「こんなことをやってみたい」という不器用でまっすぐな希望とねがいに大人が応答し、いっしょに出逢い、学びながら考えた活動だったといえます。神戸 YMCA や PHD 協会で活躍された草地賢一さんが、「言われてもしない、言われなくてもする」とボランティアの本質を言い表されたことを、私は若い人たちとの共働作業の中で実感してきました。そして、「若者を育てる」ことと、「若者が育っていくことに伴走する」ことは、本質的に違うのではないかと思うようになりました。

4. 大島青松園での出会い

私は、2000 年に旧聖和大学人文学部に赴任しました。その翌年から顧問として関わってきたのが聖和大学学生 YMCA です。現在は「関西学院大学聖和キャンパス学生 YMCA」として活動しています。ノ

この学生 YMCA が長く大切にしてきた活動の一つが、大島青松園への訪問でした。大島青松園は、香川県の大島にある国立ハンセン病療養所です。

学生たちは毎年大島を訪れ、入園者の方々と出会い、その方々が歩んでこられた人生の話を聴きました。



事前に「ハンセン病問題学習会」を何度も開き、病気についての医学的な知識と、長く続く差別偏見について勉強します。しかし、現地へ行ってハンセン病回復者である入園者の方と出会うと、学びは大きく変わります。「ハンセン病問題」「差別」「人権」といった、それまで教科書や資料の中にあった言葉が、一人の人の人生を通して、自分自身に関わる問いになっていきます。

ここでもやはり、ユース自身が出会うことから学びが始まり、そこで一人ひとりの中に立ち上がった問いに、かれら自身の人生の中で向き合い、主体的に行動しようとするのが、私たち大人の在り方を問い、変えていくことを教えられました。

5. 学生 YMCA とユースワーク

こうした学生 YMCA の活動の経験を踏まえて、私は「ユースワーク」という考え方に注目してきました。ユースワークの始まりは、18 世紀から 19 世紀、産業革命期のイギリスにさかのぼります。教会青年会やスカウト、そして YMCA などその源流に位置づけられます。

ユースワークが、現代の日本や世界の若者のあり方に示唆を与える特徴は何でしょうか。私は非常に簡単に言えば、「若者を指導するのではなく、若者が自分で考え、選び、行動することに伴走する営み」だと考えています。これは教育論として新しい考え方である一方で、学生 YMCA、さらには YMCA 活動そのものが昔から大切にしてきたことでもあります。

学生を、サービスを受ける「お客さん」にしない。大人がつくったプログラムに参加してもらうだけにもしない。学生自身が問いを持つ。仲間を見つける。自分たちで何かを始める。そして大人は、その横を一緒に歩く。ここに、これからの YMCA がユースワークに取り組む方向性があると思います。

6. 若者を信頼すること

YMCAにせよ、ワイズメンズクラブにせよ、「若い世代が定着しない」「若い人が団体に所属しなくなった」といった悩みは共通です。学生たちと接していると、若者が社会に無関心になったというよりも、社会や大人の閉塞感の中で、自分と周囲との関係の結び方や社会への関わり方への息苦しさが増し、自分自身の位置取りや役割といった社会との距離感がつかみきれない人が増えているように思われます。逆に言えば、環境、貧困、戦争と平和、人権、…といった社会や世界の事象を自分自身の内面や困難に引き寄せ、自分ゴトとして感じ取る感性が豊かなのが、現在のユースの姿なのかもしれません。かつての学生 YMCA が社会問題に積極的に関わった反面、自分の生き方、あり方と切り離された客観性や表層的な関わり方に収束する傾向も強かったことを考えると、私はむしろ、今のユースに希望を感じています。

日本の YMCA 運動の源流には、自ら集まり、自ら学び、自ら社会に関わろうとした若い人たち、そして学生 YMCAの 貴いチャレンジがありました。これからの YMCA やワイズメンズの原動力もまた、ユースとの共働の中にあるのではないのでしょうか。その力を引き出す場をつくり、一緒に歩いていくために、今もなお学生 YMCA が存在する意義は大きいと思います。

ご清聴ありがとうございました。 (終わり)



【特別寄稿】 ユース事業主任 上杉 徹（神戸西クラブ）

2026－2027年度岡村理事期がスタートしました。新設されたユース事業ですが、第20回国際ユースコンボケーション（以下 IYC2026ペナン）にたくさんの応募を受け、当初4名を理事の熱い想いから7名を選出することとなりました。熊本地震に始まりコロンビア、インドネシア、ペルーと続いております。また、千葉でも線状降水帯の大雨での水害と苦しみの中に居る仲間が増えております。

話は変わりますが、この3月に大学時代のゼミの教授の招きでゼミの OB・OG が集まる機会がありました。その際に私の10年下の学年95年4月に入学した後輩が、先生との初日の講義で出会った際のエピソードが「あんたら、勉強してる場合ではないでしょ。被災地の神戸の街にボランティアに行きなさい。」と熱く語っていたそうです。我々の頃と変わらない先生の姿勢に感激したことを憶えます。『ボランティアは自己完結』が基本です。支援に行く被災地の方々に寝床や食料を求めることなく、自前で準備し、活動し、帰ってくるのが大切です。また、現地に入って活動するだけが支援ではありません。IYC2026ペナンに参加するユースの皆さんには被災地のことも憶えながらも、良き出会いと交わり、学びを通して、海外のユースと紛争や災害について語り合ってきたいただけたらと願います。

ユース世代の活躍の場は被災地でもあり、今回のペナンへの IYC でもあります。また、この4月以降スタートした「Y's SDG's Youth Action2026」などの活動でもあるかと思います。従来のYMCAのキャンプや野外活動を支えるユースリーダーの活動ではなく、各地域社会で課題となることをワイズメンズクラブと共に考え、協働する体験。そこからYMCAの活動につながり、ワイズの活動に戻ってくる循環が今期からのユース事業となることで「YMCA サービス事業」となり「地域奉仕・環境事業」となり「国際・交流事業」となり「EMC事業」となっていくプロセスがワイズの活動、YMCA の活動の活性化につながります。動機は不順でも大丈夫です。社会貢献を計画し、体験し、気づき、さらに行動する『PDCA サイクル』を回していくことで、社会が豊かになります。

8月12日（水）の宝塚クラブにて「学生YMCAの現状と課題」をテーマに例会を開催するとのことで招かれました。5月13日（水）の例会にて私が『なぜ？ユース事業を新設するの』と題して卓話を行ったことから連動して、今期ユースについて考えるとのことで、関西学院大学の岩坂二規氏と大阪 YMCA の鈴木一弘氏を招いて例会を開催するので、ぜひ、来なさいとのことでした。そこで語られたことは『ユースワーク』すなわち「若者が自ら考え、自分たちで何かを始める」ことを大人が伴走することの大切さを語られました。これは、まさに各部・各クラブに求められる役割について語られていると私は感じました。岩坂さんは『現代のユース世代に希望がある』と明言し、鈴木さんは様々な社会課題にアプローチする学生YMCAのユースに伴走し、例会での報告、ブリテンへの寄稿を通して活動が活性化し、ワイズとYMCAが活性化すると『2044年にはノーベル平和賞を受賞できる』と語っていました。この2つの言葉に私は励まされました。今期から始まるユース事業を通じてより良い社会へとつながることが、私の掲げる今期の主題である『明日の指導者は今日造られる』の具現化となります。

次代を担うこどもとユース世代への支援が未来を明るくします。ユース事業に希望を見出していただけたらと願います。熊本や千葉をはじめ各被災地、紛争地のこどもとユースをはじめ多くの方々にも同じ恵みがあることを祈ります。

**YMI
Topics**

ワイズメンズクラブ国際協会アジア太平洋地域では、Natural Disaster Emergency Relief Fund（自然災害緊急支援基金）が設置されています。この度の熊本地震災害に際して、この基金より米ドル 5,000ドルが西日本区を通して支援金として拠出されることが決定されました。

9月にマレーシアで開催される国際大会においてラチャンアジア太平洋地域会長より岡村西日本区理事・西日本区災害対策本部長に進呈される予定です。ワイズ、YMCA が実施する現地での復興支援活動を通して被災地の復興に役立てられます。

度重なる自然災害にむけて、ワイズとしての取り組みを支えていく仕組みが活かされています。

引き続き、復興支援活動に関心をよせていただき、ご協力いただけると幸いです。

今なお困難のなかにある方々が一刻も早く安心して日常を取り戻せることを心よりお祈りします。

NDFRF 委員長 岡野泰和

8月第2例会議事要旨

日時:8月19日(水)17時30分～18時30分

場所:レストラン・アンパス

出席者:福田会長、青柳、石田、岡野、小林、武田、
多胡、長尾、安行、若林 10名

議事要旨

1) 当面の例会運営を次の通り確認した。

① 9月例会 9月9日(水)18時30分、西公民館卓話:「現代の学生事情について」 関西学院大学職員 篠坂直孝氏

② 10月例会 10月14日(水)18時30分、西公民館、卓話:仮題「レインボー・ウィークの取り組みと学生生活」 関西学院大学人間福祉学部教授 武田 丈氏

2) じゃがいもファンド事業の進め方を次のとおり決定した。

①販売価格 じゃがいも 10Kg 2700 円。(前年比 100円アップ)、三種混合 3700 円(同100円アップ)

②入荷日 10月10日(土)午前中 若林宅

③注文 締切 9月6日

3) 7月及び8月例会の卓話で懸案事項とした「宝塚市中学校の部活動地域移行」「近隣大学の学生YMCA との連携」については、それぞれに小委員会を設け、今後の進め方等について検討することとした。

4) ‘7月～8月に起こったベネズエラ地震と熊本地震に対し8月第1例会にて緊急募金を行ったが、神戸YMCAを通じて次の通り送金することとした。 ベネズエラ地震 クラブ会計予算の災害等被災者支援金から 10,000 円支出。 熊本地震 緊急募金の全額 24,700 円。上記とは別に熊本YMCA又は西日本区災害対策本部(横田九州部部長)に対して「たかラムネ」を送付する。

5) ‘西谷こどもの森の視察日程を協議したが、諸般の都合から10月中(土曜日)で別途調整することになった。

6) ‘クラブ創立 40周年(2028年5月)記念事業の検討を準備委員会(金岡・岡野・安行ワイズ)に付託しているが、次月にも検討内容の報告を求めた。

7) ‘第28回神戸YMCA チャリティーラン 11月22日(日)午前中、神戸しあわせの村にて開催。宝塚クラブは、仮装ラン(参加費@1000 円)とタカラムネ販売にて参加する。

8) ‘第31回六甲部部会 11月 28 日(土)神戸ポートピアホテルにて開催。鹿児島クラブ・京都ウエルクラブとのトライアングル DBC を締結する予定。全員の参加が望まれる。

9) ‘クリスマス例会 大坂土佐堀クラブとの合同例会。12月 19 日土 11 時 30 分より、阪神香櫨園の[カクチーナ ケインカント]ランチ貸し切り予約済みとのこと。

10) ‘西日本区各部の部会が9月～11月に開催される。参加予定者は石田ワイズへ連絡すること。

11) ‘TIFA(宝塚市国際交流協会)の地域参加型の行事「右岸祭り」が11月22日?に計画されているようだが、チャリティーランと重複するため、今回は辞退する。

12) ‘ブリテン編集 略

(若林成幸)

第2例会後の直前会長 多胡葉子ワイズご苦労さん会にて



東京スマイル多摩クラブ 10 周年記念に参加して

8月23日午後4時から開催された東京スマイル多摩クラブの10周年記念感謝会。ZOOMでの開催。我が家でパソコンの前に座っていて祝会に参加しました。約100人の方々が、北は北海道、南は九州からの参加。宝塚からは石田ワイズと多胡の2人。周到に準備されたオンラインによる記念祝会。乾杯もバーチャルで参加者がそれぞれ、ビール、ワインと画面の前でバーチャルで乾杯!このような形での祝会および乾杯は初めての試み。プログラムは祝会の形式で次々と進められた。その内容が翌日にお礼とともにyoutubeで見られるように録画されたものが送られてきた。

(多胡葉子)

「能登・神戸フレンドシップコンサート・防災学習交流事業」

神戸ポートクラブが主催する、輪島と神戸をつなぐ「能登・神戸フレンドシップコンサート」が、8月20日の午後から神戸聖愛教会で開催されました。今回のコンサートは、まず始めに31年前の阪神・淡路大震災の講演からスタートしました。朝日放送(テレビ)の報道局員として、被災地の被害状況などを伝えた経験に基づき、若い世代へ防災の取り組みを伝える実体験の講演は、一人一人の心に深く届くものでした。

その後、神戸ポートクラブが招いた、2年前に輪島で震災を経験した吹奏楽メンバー10人による力強い演奏が行われました。さらに、31年前にはまだ生まれていなかったものの、両親や祖父母、地域の大人たちから当時の被害状況を聞かされて育った長田高校コーラス部による合唱が披露されました。長田高校は全国合唱コンクールで優勝するほどのレベルを誇る合唱グループです。その歌声はいつ聴いても素晴らしいハーモニーで、私たちの心に響くものでした。音楽を介しての若い世代の交流はきっと今後の輪島と神戸をつないでいくことと、素晴らしい神戸ポートクラブのプログラムに参加できたことは楽しいひとときでした。

(多胡 葉子)



【南ひばりガ丘ウインドシンフォニー】のアフタヌーンコンサート

8月23日、宝塚東公民館で開催された私たちが応援する南ひばりガ丘ウインドシンフォニーのコンサートへ石田さん、多胡さん、福田さんと共に伺いました。昨年創設にも拘わらず、5月開催に続いて、2回目の開催です。今回も客席200席は優に埋まり、多くの立ち見席で熱気あふれるコンサートでした。

毎回「次も聴きたい!」と思うほど、「豊臣兄弟のテーマ」や「嵐メドレー」など、なじみのある曲の連続で90分間堪能させていただきました。今回も矢藤先生のMCが面白くて、会場全員笑いが止まらない。素敵な演奏と笑いに、元気をもらいました。次回は11月1日川西みつなかホールにて開催予定です。

(金岡 幸宏)



熊本地震被災者支援

「たかラムネ」400個を送る

8月24～26日の午後、有志延べ17人が集まりたかラムネの袋入れ作業を行い、27日に神戸YMCAを通じて熊本へ送り出しました。



熊本地震の状況について、様々なお問い合わせや募金、また募金の呼びかけのご協力もありがとうございます。感謝いたします。

必要とされる支援に集中すべく、私たちができることを一人一人、部署毎も考えて行動していきたいと思います。

神戸YMCAでは以下の通り、取り組みを進めています。

- 1) 被災地(熊本県八代市)における指定避難所の運営 2か所を全国Yと共に職員等を派遣します。8/26時点で、7名の職員派遣が決定しています。
- 2) 令和8年 熊本地震救援募金をネットで再度活動のアピールを更新します。

東日本、能登、ベネゼエラ等、各地で苦難を抱える方も共に覚えて祈りとともに、共に活動していきたいと思います。

橋本 唯